

市報 とおがまち

編集発行 / 十日町市役所(電話代7-3111)毎月10日 / 昭和32年6月5日第3種郵便物認可(1部6円)



明日への力

盛りあがった 市制施行 20周年記念 市民体育大会

総合優勝は中条チーム、応援賞は
水沢南チームに。

たて穴式住居跡を発見

(仮称)西小建設予定地を緊急発掘

(仮称)西小建設予定地から大量の土器が発見され、市教委では、七月三十日から九月八日までの間、緊急調査を実施しました。

この調査で、二十数箇の堅穴(たてあな)式住居跡や一万点を超える土器、石器片を発見。これらの出土品の大部分が土師

発掘場所は、市街地の北西部にあたり、通称「六塚」と呼ばれていた、信濃川や下島地区を見おろす台地の先端部分で、今回は特に(仮称)西小建設の校舎と屋体の予定地だけを緊急調査したものです。

作業は、炎天下のなか、地元考古学研究者を中心に大ぜいの市民の方々の協力で行ない、貴重な資料を集めることができた。市教委では、これらの資料を大切に記録保存することになっています。



炎天下で作業に
従事する市民発掘

国民年金グリーンとアップ

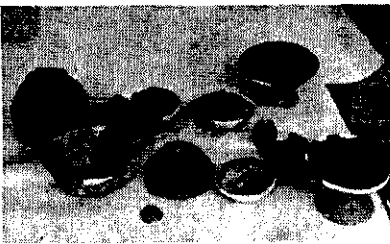
「老後を幸せに暮らしたい」という願いは、誰れもが持つ切実な願いなのだが、最近急に「年金」がアップされてきた。このうち、国民年金について考えてみましょう。

改正の特徴は、年金

の実質的な価値をそのことのないよう、スライドによる年金の改正や福祉年金の増額を九月から大幅に引き上げようというものです。たとえば、老令福祉年金を例にとりまると、現行、月額五千円が七千五百円に引き上げられるわけだ。



遺跡発掘現場(下)出土した土師器



福祉年金 (40年5月より)	
改正前	改正後
△老齢福祉年金	
月額 5,000円	月額 7,500円
△障害福祉年金 (1級障害者)	
月額 7,500円	月額 11,500円
(2級障害者)	
月額 5,000円	月額 7,500円
△母子・障害子福祉年金	
月額 6,500円	月額 9,800円
△老齢特別給付金	
月額 4,000円	月額 5,500円
△母子・障害子福祉年金の支給要件の緩和	

紡錘車など出土

胸形敏朗(県教委文化行政課)

この遺跡からは、昔の人々が生活の場とした住居跡が数多く発見されました。住居のなかには、今の皿と茶碗のあいのこの杯(つき)、供物を盛った高杯(たかつき)、煮炊きをした甕(かめ)と飯(こしき)などの土器や、カマド、それに糸を撚った紡錘車(ツム)などが発見されました。この住居跡は、今から千二、三百年前の人々が、家族の墓である古墳や米をつくって生活していたところだ。

この遺跡は、県下ではじめて集落単位で生活を教えてくれる貴重な遺跡でもあります。

改正された主なもの

(いずれも月額)

老令年金(五年) 現行八千円から九千二百八十円
老令年金(十年) 現行一万二千五百円から一万

母子、準母子、遺族年金 現行二万円から二万三千二百二十円

道路は広くきれいに安全に

道路は、私たちが毎日生活するうえに欠くことのできない役割をはたしています。市は、道路を安全かつ快適に使用していただくため、破損箇所の修繕、並石等を行なっていますが、つぎのことにご協力ください。

歌会始の詠進 歌を募集

昭和五十年歌会始のお題は「祭り」と定められました。詠進歌は、自作の歌で一人一首とし、未発表のものに限ります。詠進期間は、九月一日から十月十一日までで、郵便番号一〇

〇東京都千代田区千代田一番一号官内庁あてにお送りください。

敬老の日

老人を考える

長寿東の横綱は福島リサ(101歳)さん

9月15日は敬老の日です。長い間、社会に貢献された老人に、いたわりと感謝をあらわすと共に、老人自らがその生活の向上に努めるため設けられたものです。今月は、老人のしあわせについて考えてみました。



ある老人は「社会に役立つこと、いわれる、あてにされること、何よりのプレゼントという。今日も、老人クラブ員による奉仕活動が続く……千歳公園で」



市長から100歳のお祝いを受ける福島さん(48年6月)

日本の人口構成は、昭和六十一年が壮年期型、昭和七十五年は若年、中高年、老人人口が均等化した高年期型、そして昭和九十年になると、六十歳以上の人口が圧倒的に多くなる老年期型

これは、五年前の昭和四十四年に比べ、八百五十六人の増加となつています。ちなみに市内の最高年齢は、福島リサ(中条峠)さんの百一歳(以下別表のとおり)ですが、八十歳以上の老人は、市内で六百四十四人となつています。老後はすべての人に必ず訪れます。その老後を明るく楽しく過ごすには、体の健康と同時に心の健康を保つことが大切。ある老人に「あなたは今何を一番望みますか。」

「うつるとみられます。当市の場合も、昭和四十九年四月一日現在の六十歳以上の老人は、全人口の約一三・六割にあたる六千八百九十九人に達しています。」

とたずねると「生きがいを与えてくれるもの」と答えました。生きがいをもつことで、心に張りがあるのです。

老人に保養とレクリエーションの場を提供し、生きがいを与えることは大切なことです。

市の老人対策

老人福祉のため、やらなければならないことは、たくさんあります。限られた財源のなか、現在、市が、行なっている老人対策は……

六十五歳になると――

■扶養者となり、市民税も免除されます。ただし、一定額以上の所得がある場合、免除されません。

■老人健康診査の対象となります。

■六十五歳以上の寝たきり老人に医療費助成及び見舞金支給(特殊寝台の貸与)

老後とは何かを考える

――市民大学講座を開設
ことしも九月中四回にわたって市民大学講座を開設しました。今回は、誰れもが登らなければならぬ階段――老後問題にスポットをあてました。

とき 九月十二日、映画鑑賞「恍惚の人」ほか。
九月十八日、テーマ「金だけで老後が買えるか」講師「長嶋紀一」。

九月二十七日、シンポジウム「老後への挑戦」講師「玉井成光、青木研三、春日由三、小林由弘(司会)」。

いずれも夜七時～九時(映画のみ五時四十分から)。
ところ 市民会館ホール

ごみ収集のみなさん

羽鳥仁作(漢之平)36歳
「きれい」ということは、だれもが気持ちの良いものです。きれいな川、きれいな山はだれでも望んでいることだと思えます。生活が豊かになってくると、ごみもたくさんで

八幡地区では、前には牛や馬に食べさせていた残飯や、野菜くずなどが川に捨てられ「きれいな川」とは、ほど遠いものでした。



この浅之平部落は、市からごみを集めてもらえらるようになってから、川にごみを捨てる人がなくなり

また以前、ごみの捨てられていた所は草花が咲き、自然の姿にもどったようです。ごみ収集するみなさんのおかげで、川しもの人達にも迷惑をかけず、私達もきれいな川をみることで、大変ありがたいと思えます。ごみ収集当日、高く積み上げられたごみの山をみると、ごみを集める仕事は大変なことだと思えます。ごみをステーションに出す一人ひとりが、ごみを収集する人の身になって、またごみの近くの家に迷惑をかけないように、お互いに注意したいものです。

